

ンちゅうのは以前、計画がなされていたということで、平成26年度にも財団法人シンクながさきという会社が、北部地区の市民と共同で将来の観光リゾートイメージ図を作成し、これ資料として私もいただきました。現在の上対馬北部地区ですね。その辺をもう少し予算を、上対馬地区に予算をほしいということで思っておりますので、ぜひ今後、上対馬、上県町の両方を計画を、これはやっぱり行政だけでは大変難しい問題でございますので、やはり市民を交えて、これは市民を交えて、いろいろな振興計画を策定をしていってほしいと思いますので、ぜひ原田部長、田村所長をはじめリーダーとなって、今後しっかり北部地区の整備計画について考えて、市民と一緒に動いていっていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

ちょっと時間が2分ありますけども、私はいろいろと要望いたしまして、今日の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、糸瀬雅之君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は1時5分からといたします。

午前11時54分休憩

午後1時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 皆さん、こんにちは。11番議員、対政会の小島徳重です。

午前中、糸瀬議員が、本議会は対馬のありようを決める重要な議会であると、そういうふうに発言されましたが、私も全くそのように感じております。私、初当選以来、これまで10年間の間で、毎回、一般質問の場に立たせていただいて、今日、41回目を迎えます。その中でも、初めてこの質問の席に立ったときの緊張感以上に、今日は緊張した気持ちでこの場に臨んでおります。対馬の将来を決定する、その重要な場で、比田勝市長がよりよい判断をされることを願いながら、私は、核ごみ処理場、最終処分場は対馬には必要ないという反対の立場で質問をさせていただきたいと思います。

それでは、通告に従い、2項目お尋ねいたします。1項目めの①のところは取下げをさせていただきましたので、御了解をいただきたいと思います。

1項目め、対馬市SDGs未来都市計画及びアクションプランのビジョンと、高レベル放射性廃棄物最終処分場の整合性についてお尋ねします。

原発から出る高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定の第一段階である文献調査への応募を議論すべきであるという意見や、文献調査への応募を求める動きがあり、本議会に請願を出されて

います。最終処分場の機能は、対馬市SDGs未来都市計画及びアクションプランにうたわれている将来ビジョンと整合性があるかどうか、市長の見解を求めたいと思います。

2項目めは、オーガニック給食の推進についてお尋ねします。

オーガニックは、自然の力、太陽、水、土の微生物などを使って栽培した食品などを指しますが、同時に、自らの健康はもちろん、環境にも配慮し、生態系のバランスを保ちながら生きていこうとする姿勢や在り方そのものだと言われています。これからの世界を生きていく子供たちには、できるだけ体にいいものを食べさせてあげたい。それは、私たち大人の共通の願いです。それを学校給食という、どんな子供たちにも公平な食卓でこそ実現すべきだと考えます。

我が国の有機食材は、まだ僅かです。対馬でも一部の方々に関心を持っておられますけども、なかなかまだ高まっているとは言い難いと思います。

国では、文科省と農水省が中心となり、オーガニック給食の推進が図られています。先進自治体では、オーガニック憲章や条例を制定して、積極的な取組がなされています。対馬市でも第3次対馬市食育・地産地消推進計画に減農薬米の利用を推進しますと記載されていますが、詳細な実態は見えません。減農薬米の利用のみならず、無農薬米や野菜類の活用も考えるべきではないかと思います。教育委員会の見解をお尋ねしたいと思います。

以上2項目、簡潔で明解な御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 小島議員の質問にお答えいたします。

本市のSDGs推進につきましては、対馬の未来のための羅針盤となる対馬市SDGsアクションプランを昨年6月に策定し、取組を進めているところでございます。

このような中で、今回の質問の第1点目は取下げということで、第2点目で、原発から出る高レベル放射性廃棄物の最終処分場の機能が、SDGs未来都市計画の将来ビジョンと整合性があるのかという質問でございますけども、SDGsの取組は、誰一人取り残さないことを原則に、環境保全、社会的包摂、経済成長の3つを調和させながら諸問題を同時解決しようという特徴があり、本市におきましても、SDGsの視点で持続可能な島づくりを推進するため、構想をまとめて国に提案し、令和2年7月にSDGs未来都市に選定されております。

国連が推奨する17のゴールと169のターゲットのうち、本市が優先的、重点的に取り組むべきことをSDGs未来都市計画には記載しており、例を挙げますと、ゴール14の「海の豊かさを守ろう」と、ゴール15の「陸の豊かさを守ろう」は、本市のSDGs未来都市計画の7つの重点アクション中、3の持続可能な農林水産業に関連しております。

本市の主要産業であります農林水産業では、生み出される産品やサービスの付加価値を高め、担い手を確保し、食の持久率を高め、農林水産業による環境・社会負荷を軽減することで、持続

可能な農林水産業を確立することを目指しております。

さらに、本市の恵み豊かな森林には、ツシマヤマネコをはじめとする対馬固有の国内希少野生動植物が混在しており、生態系を保全するためにも持続可能な森林管理が必要であることは認識しており、高レベル放射性廃棄物の最終処分場の機能による産品への風評被害や、環境への悪影響が懸念されるところであります。

また、昨年の6月議会では、この対馬の美しい自然を未来へつなぐため、ごみをゼロにしていくな断のチャレンジとして、ごみゼロアイランド対馬宣言を行っております。

したがいまして、SDGs未来都市計画では、これから先ずっといつまでも安心、安全に対馬に暮らし続けられる島づくりを推進し、環境・社会・経済の3つを調和させながら諸問題を同時解決していくことを目的としておりまして、SDGs推進の取組は市民と協働で取り組むことから、最終処分場の機能と相入れないところもあろうかというふうに考えているところでございます。

私のほうからは以上であります。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 小島議員の御質問にお答えいたします。

対馬市の学校給食については、現在6つの共同調理場があり、安心、安全な給食の提供に努めているところでございます。

学校給食における対馬産農産物については、これまで食育推進により利用促進が図られてきたところですが、平成23年度から農林水産部が実施しております地元米消費拡大事業、地場産品地産地消推進事業により、さらに利用促進が図られているところでございます。

オーガニック給食の提供は、大変意義のある取組であることは認識しておりますが、現在のところ、その実現には多くの課題がございます。

第一に、オーガニック食材の安定供給に関する課題でございます。対馬市では、年間を通して学校給食で必要としている地場産食材やその量を100%供給することが難しい状況で、オーガニック食材となれば、さらに厳しくなります。現在、対馬市内に有機JAS認定取得者は存在しておりませんので、まずは、オーガニック食材生産者の確保が必要となります。

第二に、作業の増加に伴う調理場の負担でございます。有機野菜は、選果場などを通さずに農家から直接調理場に運ばれることが多いため、規格のばらつきや、学校給食で使用する規格以外のものの混入、虫や泥つき野菜によって、その選別や除去、洗浄など調理員の手作業が必要となり、流通されている野菜と違い、下処理に多くの時間を要します。限られた調理員数で短時間の調理が求められる調理場では、負担が大きくなります。さらに、オーガニック給食では、自然の摂理に合わせ、季節ごとに取れた食材に合わせて献立を考える必要があり、栄養教諭や学校栄養

職員への負担も大きくなります。

第三に、給食費の増額でございます。オーガニック食材となると価格も高くなるため、現在の給食費のままでは、献立の品数や一食当たりに必要な栄養及びカロリー摂取に影響が出ることが考えられます。オーガニック給食を実施した場合、給食費の値上げが必要となり、保護者の皆様の御負担も増えることになってしまいます。また、市外からオーガニック食材を取り寄せるとなると、さらに経費が必要となります。

オーガニック食材の使用割合を増加させるためには、調理場が求めている量の確保、品質保持、規格の統一等の要求に対応できる生産体制、流通システムの構築が必要です。そのためには、生産者、関係団体と連携しながら進めていく必要があります。以上、述べましたとおり、現時点では多くの課題があり、容易に進められるものではないと考えております。

しかしながら、議員がおっしゃった食の安全に加え、SDGsの観点からも、その意義は理解できるところであり、今後、一部でもオーガニック食材を取り入れた給食提供の可能性を探るため、市内の状況を含め、関係機関等からの情報収集などに努めてまいります。貴重な御質問をいただき、ありがとうございました。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 市長、それから教育長、御答弁ありがとうございました。

まず、核ごみと、それから、SDGsの未来都市関係のほうの市長の答弁のほうから確認をしながら詰めてみたいと思います。市長、最後にまとめてくださったように、SDGsの狙い、ビジョンですね。これと核の最終処分場、相入れないところもあろうと考えているという御答弁でしたけども、そこのところをもう少し検証しながら詰めていきたいと思いますので、大方の答弁として、それで終わってよしというわけにいかない部分ありますので、詰めていきます。

それで、ここに、市長、将来ビジョンを出しておりますけども、念のために市民の方々にも、有線テレビ等で見ていただいている方にも分かっていたくために、読んでみたいと思いますが、よろしいでしょうかね。

まず、対馬市の将来ビジョンとして、地域の実態、それから地域特性として、こういう文言がパネルで出しておりますけども、「森・里・海の恵み（生態系サービス）は、対馬の基幹産業である農林漁業や観光業の存立基盤となり、島民の暮らしや125のコミュニティーを支えている」という文言がございます。これ、私、何回読ませていただいても、すばらしい文言、表現だと思っています。市長、これつくられたときの市長ですから、当然、最終的に目通されたと思いますが、市長の所感というか、感想をちょっとお聞かせください、この文言についての。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） あくまでここに記載しているように、対馬の豊かな自然環境、この中には、やはり森・里・海の恵みが豊富にあるというようなことで、今まで対馬の基幹産業であります農林水産業を中心に市民は生活をしてきたということで、未来永劫この豊かな自然環境を残していくべきだというようなことから、このSDGs未来都市の将来ビジョンという考え方にしております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 市長、そのとおりで、御答弁いただいたとおりだと思います。私、これ何回も読ませていただきました。出されたときからですね。今回また改めて読みまして、この文言を考えられた方、市の職員なのか、それとも外部の方なのかよく分かりませんが、市の職員が書かれたんですかね、原案、素案というのは。いかがですか。市長がうなずいてありますから、市の職員なんですね。これは、全国どこに出しても恥ずかしくない立派な、いわゆるビジョンというか、宣言だというふうに思っています。

今日、午前中からいろいろ市の職員、マナーとか、いろんな指摘もありましたけども、やはりこういうふうなビジョンを立て得る職員がおるということは、大いにこれは誇りとすべきことだと思うんですよ。

それを実現するために、次のところに、今度は、2030年という具体的なあるべき姿というのがあります。そして、そこには「循環する島」というのがあります。こちらにパネル出しています。ここに、またさっきのビジョンを踏まえて、地域特性を踏まえて、こう書いてあります。

「SDGsの推進、特に農林漁業や観光業の存立基盤である自然資源（森林資源、水産資源、生物多様性等）、観光資源の保全に努めることで、自立と循環の宝の島としての価値を高める」と、こう続いています。

そして、それをさらにもう一段先に進むと、こういう文言があります。「自立する島」という項目がございます。そこも読ませていただきたいと思います。「循環経済によって利益・雇用を創造し続けることで、若者の定住、UIターンを促す」。そして、続く文言として、「市民主体の島づくりによる地域力の回復は、外部依存、行政依存から内発的発展へ移行させ」という文言が続いています。それで、今回、核ごみの処分場を誘致するに当たって、外からのやはり、今、落ち込んでいる経済回復を図るために、いわゆる交付金なるもの、あるいは国の力というのを頼ろうという考え方があるわけですけども、このことについて、この「自立する島」についての、いわゆる内発的発展へ移行させるということについて、市長どうお考えか、所見を伺いたいです。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） ちょっと大変難しい質問だというふうに、私、感じておりますけども、

要は、対馬の場合は、農林水産業が豊かな島であるということにつきましては、先ほど説明をいたしました。このような中で、やはり環境、社会、経済が同時に成り立っていかなくてはならないというのがSDGsの大きな理念でございますので、その中でも、特にこの環境問題と、そういったところについては、やはり循環をしながら、きちっと新たに更新ができる世界にならなくてはならないというような思いから、このような表現になっているというふうに考えていただければというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） ありがとうございます。それで、やはり外部の力を借りなきゃいけないこともあるけど、今この計画できて、このコロナ禍の時代、いろんなことがあって、うまくまだ運んでいない面がありますけども、ぜひこのことは、この「自立する島」という内容実現に向けて、これからの大きな取組として、市長、頑張ってくださいなと思います。

それで、その一連の流れの中で、やはり対馬にとっては、自然を大切にする、そこから生み出される第1次産業のそれが存在基盤であるということを確認できましたので、先般、国のほうから西村大臣がおいでになりましたよね。これは、壱岐対馬国定公園を拡張して、もう少し対馬や壱岐をクローズアップするという手続のために確認に来られたと聞いていますが、そのときに西村大臣が述べられた言葉を読み上げてみます。「対馬は、自然環境に貴重なものを有している。環境を守り、活用して、地域を活性化することが大事だ」と話したと。これは新聞報道ですが、市長、そのとおりのようなお話があったかどうか、確認をお願いをしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） そのとおりでございます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） ありがとうございます。

それで、その流れの中に、大石知事が対馬の最終処分場問題で定例記者会見をされましたね。そのことも新聞報道でしか私たちは知り得ないんですが、報道された以外には、ネットで県のほうが全部詳しく出していましたから、それを拾ってみました。その中でこうあってあります。

「県民の方々の安全確保、風評被害、観光面、水産面、特にですね。そして、単に対馬の問題だけじゃなくて、長崎県下の広域行政として捉えなければいけない問題だ」ということを報道されていますが、このことについて知事と何か、市長、お話をされたことがございますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 実は、知事がこの報道発表される前に、この核ごみ問題について、また改めて御相談をさせていただきますというお話まではさせていただいておりました。ただ、その後は、まだちょっと知事のほうとは話ができていない状況でございます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） それで、やはりこのことも踏まえた上で、核ごみ処分場をどうするかということの判断をしていただくということで、ぜひ市長のお考え決定される前にお願いをしておきたいと思います。

今回、私、反対の立場で署名にも協力させてもらって、市民の方々の声も聞きましたし、それから、島外からもたくさんの署名をいただきました。その島外からの署名の中には、やはり被爆県、長崎県であるのに、なぜ対馬にこういう話が持ち上がるのかということで、正直言って、島内よりも島外からたくさんの署名が来たわけですね。ということから考えても、知事が考えてあること、長崎県、対馬に核ごみの処分場を入れること、知事は今の段階では判断する立場じゃないというか、二次に進む段階でしか言明されないですけども、そういう気持ちを踏まえた上で、当然、そして県内たくさんの署名をいただいた方々のことも考慮しながら、市長、御判断をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大石知事は、やはり対馬だけの問題じゃなくて、このことについては、広く長崎県内のことも考慮すべきだというような考えをお持ちであるということは、私も新聞等で確認をしているところでございますし、今後またこのことにつきましては、私自身も総合的に判断するためにも、再度、知事のほうとも御相談もさせていただきながら、最終的な判断をいたしたいというふうに考えているところであります。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 今のことを踏まえた上で、次のステップに進みたいと思いますが、最終処分場なるもの、これは現在、存在しないわけであって、いろんなNUMOさんが説明されている資料、それから、これは危険性が高いんだということを指摘される研究者や、いろんな学者さんたくさんおられますね。その中で、私も正直言って、このことが大きくクローズアップされるまでは、原子力船むつが対馬に持ち込まれようとしたときのことからの国の原子力行政に対する、いわゆる信頼度は、全面的に信頼したら危険だということで、50年間生きてきました。私もむつに視察に行きました。原子力船むつ放射能漏れを起こしたとき。そして、それから50年ずっときている中で、対馬がいざまた舞台になったときに、最終処分場というのは、原子力船むつとはまた比べ物にならないような危険性を帯びています。その危険性については、市長のほうに先ほど資料を何点かやりました。市長、目通されたと思いますが、そのことについて、安全性、逆の言葉で言えば、危険性の捉え方ですね。どうお考えか御意見をお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） あくまで今、いただいたこの資料に目を通させていただいた上での所

感でありますけれども、この資料を読む限りでは、やはり地下埋設施設、そしてまた、埋設するまでの工程については、安全ではないとは読み取れるというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 市長、そのように資料を御理解いただいたということは、今後の判断に十分生かしていただけるものと確信をしております。それで、一応、私も専門家ではないし、にわか勉強ですから、そのことについては、また、特別委員会も設置されたりしていますので、その中でもまた議論をさせてもらったりすると思いますが、市長の今の言葉は十分受け止めておきたいと思っております。

それで、そこに出している例として、今あったように、最終処分場に持ち込むための、その危険性の中で、ステンレスの容器に閉じ込めるという段階での資料ですけども、実験的にガラスと混ぜ合わせて固化体にするというときに、固めるときに、うまくいったのは約半分ぐらいだと。それ以外は不完全だということは、これは既にはっきりしているわけですが、そのこと、それからまた、ほかのいろんな物質を地下300メートル以下に埋めるちゅうときに、危険性がありますよという資料もそこに添えていますから、市長はそれを見ていただいて、危険性が高いと判断されたものと思いますので、そのことを踏まえて、そしてまた、輸送についても危険性が高いということ、重大な問題だということの資料も差し上げていますので、そのことを踏まえた上で、先ほどの対馬市が求めているビジョンと、そして、その危険性と合わせたときに、市長が総合的に判断されるというときに、今までの段階でのお考えがあればお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほど答弁いたしましたとおり、再度また確認はいたしますけれども、あくまでこのいただいた資料を見る限りの中で、この工程、そしてまた、地下埋設については、危険な状態であると判断したというような答弁をいたしました。こういったところを参考、そしてまた、ほかにもかなり多くの資料等もいただいてありますし、また、各大学の先生等からいただきました書簡等もございますので、そういったところも参考にさせていただきながら、先ほど申しましたように、最終的な判断はいたしたいという思いを持っております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） そこで、市長が最終的な判断をされる段階までの中に、私も署名活動等で多くの市民の方々から意見を聞きました。生の声を直接聞きましたので、そのことを2例ほど伝えたいと思っております。

まず1点目は、お一人の方は、90歳の女性の方、美津島町の在住の方から、5月17日にお電話をいただきました。これ、比田勝市長に直接言ってくださいと言われてたんです。私、毎回何か一般質問しているようだから、多分今回もまたあんたはすっでしようと言われて、直接議場で



伝えてくださいと言われたんですよ。個人的にじゃなくてね。なぜ議場かという、市民の声として、やはり広く知ってもらいたいというこの方の意見です。そのとおり、電話ですから、100%メモできているかどうか分かりませんが、読み上げます。「比田勝市長に伝えてください。自分は比田勝市長の支持者です。誠実な人柄を信頼している。2回の市長選挙では、いずれも比田勝市長に投票しました。核ごみ受入れ問題の決断は、大変難しいことであろうと思います。対馬の未来のために、ぜひ核ごみの受入れを断ってほしい」。そして、次に言われた言葉ですよ。「己を捨てて、島を守る気概を持ってください。宗助国公は、僅か80騎余りで数万の蒙古軍に立ち向かわれた。討ち死にされたけども、対馬人の気概を示した故事を忘れないでください」と、こう言われました。「この願いは、私の人生の最後の願いです」と言われました。「対馬で生まれ育ち、90年間過ごしてきた我がふるさと対馬への最後の奉公のつもりで話しています」と、こう電話で言われました。「必ず議場で発言し、市長さんに聞き入れてもらってください」と。これが5月17日でした。

5月下旬に、ちょっと私が日にちメモし損なっているんですが、またこういう電話がかかってきました。「文献調査による交付金というのが出るらしいが、目の前の欲得で動いてはだめです。お金を抜きにして、子孫に恥ずかしくない判断をしてください。対馬を利用されては困る」と、こうおっしゃいました。私が下手な作文をしたように思われたらいけませんから、市長には後でこの方の電話番号をお渡しします。いや、本当。そして、夕べもまた、一般質問をするそうだからと言って、念押し電話だか知らないけど、かけてこられたんですよ。そういう、これが一人の方。

もう一方は、署名活動をしているときに、雞知の街頭でしているときですね。子育て中のお母さんが言われました。「これを受け入れることになったら、自分たちの子供たちはどうなるんでしょうか。責任を持ってもらえるか」と、こういう言葉を言われました。これは人生の終わりを見据えた人と、今から子供を育てようという若いお母さんの二人の言葉です。その他いっぱい言葉は聞いていますが、一応このお二方の言葉だけ上げさせてもらっています。これ聞かれて、市長、所感があればどうぞ。なければないで結構です。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この言葉を聞いて、私も胸に響くものがありますし、ずしんと重い気持ちを受け止めておりますけども、ただ、言うように、今、対馬の中がこの核ごみ問題で分断をしているということで、私、当初から申しておりますように、何せこの分断が一番怖いし、一番厄介という思いを持っております。そういうことで、このような本当に市民の皆様からの気持ちをまたよくよく頭の中にかみ砕きながら、最終的な判断をするための糧にしていきたいという思いを持っております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） ありがとうございます。対馬は、ここしばらくこれで分断というか、騒がしい状態が続いているんですけど、その中でこういうことを一つ、私、感じました。対馬に何か明るい話題というか、将棋の佐々木大地さんが、2つのタイトルに挑戦するということが決まりました。そのとき、将棋の世界、私、全く知りませんが、やはり熟慮に熟慮、将棋の世界は一手1時間も考えたり、そういう世界の中で熟慮されて、今、タイトルに2つも臨まれるという、そういう中で、やはり彼のそういう活躍というのが、何か私たちにとっては救いの気持ちで、元気もらったんですけどね。佐々木大地君をはじめ、対馬を出て行って、都市というか、都会で、本土の地域で生活をしている人たちですね。その人たちに対馬が自分のふるさとだと胸張って言えるためには、ぜひ核ごみの処分場は対馬には持ってきてはいけないということを最後に市長にお願いをして、このことの質問は閉じたいと思います。よろしくお願いします。

それから、学校の給食調理場の件は、オーガニック給食の件は、教育長お答えいただいたとおり、対馬ではまだね。やっとなんか減らしたお米だけが一部の給食調理場で使われているという現状を私も聞いています。これはこれからの大きな課題だと思いますので、ぜひ教育長おっしゃったように、検討していただいて、進めていただきたいと。

その中で、減農薬米を使ってある調理場、これが僅か2か所しかないですね。これ何でなのかですね。なぜ全部の調理場で、全食じゃなくてもいいけども、特定期間でもいいけど、あっていないのか、その辺りはいかがなんでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 初めに、答弁の中でも申し上げましたけども、恐らく今回は給食のことの御質問でしたけども、（「ちょっと大きい声でお願いします」と呼ぶ者あり）給食のことの御質問でしたけども、SDGsの関連もあって、この御質問ではなかったのかと把握をしております。

議員からいただいた資料にもございますとおり、現在、減農薬米は、厳原調理場と上対馬調理場の2か所しか使用をしていないということでしたけども、私の記憶にある限り、私が勤務した学校でも出たことがありましたので、ひょっとすると統計の漏れがあったのか、もしくは、何かここに出せない理由があったのか分かりませんが、現時点ではこの2か所しか出ていないということで、もし必要であれば、ほかの調理場についても使用を促していきたいと思っております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 今、手をつけるのは、お米が一番手をつけやすいですね。それで、教育長、先ほどお答えになったように、農薬を使わない米のほうが値段が高くなりますよね。無農薬やったら、もっと高くなりますよね。そして、それ以外の食材についても、有機食材を使えば当然、高くなります。しかし、それはやろうと思えば、お金、予算の問題になるわけですから、子供たちの健康、食の安全という面から考えたとき、ぜひ子供たちの食の安全を守るという意味でも一つと、そして、農薬を減らした農法、それから、有機農法を広めていく。そのためには、当然、補助金がなくてははいけない。そして、それを指導する立場のまた機関もなかったらいけないんですけど、この辺りは農林のほうのまた仕事もあると思うんですが、その辺り何か学校教育課と連携取りながら、今までオーガニック給食について話し合いされたことがございますか。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） お答えいたします。

特に教育委員会のほうとは、このことについて話をしたことはございません。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 農家のほうも高齢化が進んでいますし、なかなか農業振興という点で私も苦しい点があるんですけどね。有機栽培をして価値の高い農作物をつくれば、高齢になってもあるいは狭い畑でも、それだけいわゆる高い値段で給食が引き取ってもらえれば、それは成り立つところが出てくるんじゃないかなと思います。

今、ほかの食材、お米以外も見ても、まだ対馬の中で賄えているものが30%台というのがほとんどですね。玉ねぎもジャガイモも、アスパラとシイタケだけは80とか90とかいってますけど、ほかの食材についてもまだ数値は割合高くしようと思えばできると思います。ぜひ、そのことは実現をしていただいて、給食によって農業の活性化ということをぜひ考えていただきたいと。

国のほうがいろんな施策打ち出しています。それ国の施策、どういう施策があるか御存じですか。よかったら紹介してみてください。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 十分な答弁ができないかもしれませんが、国のほうも、今、議員がおっしゃったように、進めるようにということは連絡が来ております。

現在、先進的なところとして千葉県のみすみ市が、全て有機米100%全ての学校に提供しているというような事例も出てきます。

それと県内のニュースにおいても、ある学校でオーガニック給食が提供できたというニュースが流れたりしております。徐々に県内でも広まりつつありますので、先ほど答弁したとおり、全

てを置き換えることはできないかもしれませんが、可能な限り1食でも2食でも、まずは始めてみるというところを検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 今、ここにパネルを出していますが、これは農水省関係ですけれども、有機農業の推進ということで、みどりの食糧システム戦略推進総合対策という事業で、4年度で総額30億程度の全国的な予算が多分ついています。

その中身を細かく見ますと、有機農家を育てようとか、それから後継者を育てようとかいろんな施策も含まれているし、そしてできた産品を流通させるためのいわゆる機関を育てようとか、いろんなことがあります。

それで対馬の場合、なかなか農業だけでは生活が難しいけれども、学校給食というのは安定した食材供給の場になりますよね。それでぜひ、今、30%台、40%未満という食材が野菜類、果物、野菜類が多いですから、もう少し力を入れていただきたいと。

これは水産加工品についても、初めは全然対馬の物を使わないでやっていたんですけど、それが今は結構伸びてきているのは、これはやっぱり行政の努力があって、加工業者の方々の努力があって、今、伸びてきているわけですから、農業についても必ず可能性はあると思います。

そういうことでお願いをして終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は2時10分からといたします。

午後1時55分休憩

午後2時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 初めに、今日の対馬地方は、核ごみ受入れに対する推進派と反対派の見解が交差し、本市には不穏な空気が漂っています。私自身、核ごみ受入れについて難色を抱いている立場から、今の平穏な生活継続のため、1日も早い終息に向けて取り組んでまいり所存でございます。

さて、本日は観光全般について、2点目、路面整備について、3点目、安全な通学路の確保について質問いたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

先日、関西方面から御夫妻でレンタカーにて市内観光の途中、佐須窓口センター内設置の観光